

たかつき DAYS

[広報たかつき]
令和3年 No.1400

7

知る 広がる 好きになる

イベント主催者に聞く 高槻イベントのこれから



10 新型コロナウイルス感染症
関連

14 住み慣れた地域で
安心して暮らす

44 歴史館イベント

高槻を語る時、市民が生んだ名物イベントは欠かせない。新型コロナの流行で中止を余儀なくされるイベントが多いなか、いち早くオンラインに活路を見だし、リアル以上のコミュニケーションにトライしたイベントがある。

総来場者数約3万5000人！
7日間、多彩なコンテンツをライブ配信

選ばれた3作品は
後日にはわにして
作者に贈呈

day 5
はにコン

「こんなはにわがあったらいいな」というイラストを事前に学童保育やSNSなどで募集。オンライン上で審査員が選んだ作品をプレゼンし、投票で最優秀賞・優秀賞を決定した。イチナナライバーによる「はにコン選手権」も大盛り上がり。

day 6
古代キャラ大集合

古墳・はにわ・古代にまつわる日本各地の古代キャラが現地からの中継で登場。いつもはステージに上られる8体が限界のところ、14体が参加。

day 7
ステージライブ

たつき観光大使のウルフルケイスケさんや古墳シンガー・まりこふんさん、地元高槻のアーティストや和太鼓チームのほかイチナナライバーも出演。ここでも古墳フェスの新しいファンを呼び込んだ。

day 1
オープニング

現代アーティストによる配信会場の装飾・ライブペイントと、古代から現代までの音楽でスタート。

day 2
発掘会社潜入

日本屈指の会社の発掘調査現場に取材カメラが密着。復元の過程もレポートした。今回だから実現できた企画！

day 3
バーチャルダンボール古墳村

人気企画をバーチャル化。今城塚古墳をイメージしたジオラマの「古墳村」を製作。クリエイターと視聴者がともに参加しながら、「古墳人間」の入村と村を作り上げる様子をリアルタイムで届けた。

day 4
ライブペイント「四神爆誕」

キトラ古墳の壁画の「四神」を4人のクリエイターが作成する様子をライブ配信。また、四神の壁画がある「キトラ古墳壁画体験館 四神の館」からも生中継を行った（特別協力）。

day 1
オープニング

現代アーティストによる配信会場の装飾・ライブペイントと、古代から現代までの音楽でスタート。

day 2
発掘会社潜入

日本屈指の会社の発掘調査現場に取材カメラが密着。復元の過程もレポートした。今回だから実現できた企画！

day 3
バーチャルダンボール古墳村

人気企画をバーチャル化。今城塚古墳をイメージしたジオラマの「古墳村」を製作。クリエイターと視聴者がともに参加しながら、「古墳人間」の入村と村を作り上げる様子をリアルタイムで届けた。

day 4
ライブペイント「四神爆誕」

キトラ古墳の壁画の「四神」を4人のクリエイターが作成する様子をライブ配信。また、四神の壁画がある「キトラ古墳壁画体験館 四神の館」からも生中継を行った（特別協力）。

古墳フェス come come* はにコット

今城塚古墳公園で平成24年にスタート、約3万5000人が来場する世界初で最大級のアートと古墳のフェス。古墳や古代をテーマにした作品やフード、ステージ、体験企画などが一日中楽しめる。



古墳フェスはにコット
実行委員会 代表
マキエさん

オンラインの成功をリアルと連動 10周年ならではの新たな挑戦へ

「足さえ運んでももらえたら大好きになってもらえる自信がある」。今城塚古墳公園の魅力を広めたいと考えたマキさんがクリエイター仲間と声をかけ、「古墳に興味のない人でも遊びに来くなるように」アートと古墳を掛け合わせたイベントをスタート。そのユニークさと親しみやすさが人気を呼び、地元的女性たちもボランティアに名乗りをあげるように。手づくりイベントでありながら、終了後も古墳をアピールしたい自治体でのワークショップや、百貨店などの古墳フェアへの出店を通じて常に新たな人と関わり続け、賛同する人やファンをどんどん増やしなが、イベントは3万5000人規模に成長。昨年は第10回の節目を迎える予定だったが、昨年は他のイベントが続々と中止となっていくのを見て、8月時点で11月末のイベントをオンラインに変えることを宣言。世界規模のライブ配信アプリ「17LIVE」とコラボ

した第9.5回を開催した。実は、マキさんと実行委員のミカさんは、一昨年末からイチナナライバー（ライブ配信者）として活動。周囲からパワーダウンを心配されたが、特定のアカウントを見に行くインスタグラムやYouTubeと違い、イチナナは配信を見るために集まっている人が常に何万人もいるため、「やり方次第で大勢を巻き込める」と考えたという。「でも企画がもしろくなくないと見てもえませんが、すべてが初めてだったので大変でしたが、立ち上げた時間様、何も知らない無敵の状態だったからこそ挑戦できた」とマキさんは振り返る。結果は大成功。今年は「フォロワーの多いライバーを巻き込み、リアル会場とイチナナ会場でハイブリッド化させて第10回を祝いたい」とマキさん。さらに「生配信なら高槻から世界に古墳の魅力を発信できる」と、新たな可能性も見つけていた。

VOICE

小学生の頃から実行委員に！高校生になった今も楽しく参加しています。成長できたし、地元に誇りをもてるようになりました

大西太郎さん

実行委員の仲間と一緒に壁を乗り越えられる挑戦が楽しい。昨年は今まで足を運べなかった人にも参加してもらえました

立石裕己さん

子どもと一緒に参加できる実行委員！リアル&オンラインイベントで常に進化してはにコットに遊びに来てね〜♪

竹内良子さん

現地開催が中止になったのは残念でしたが、スタッフの方のがんばりには驚きました。新しいはにコットを楽しみにしています！

かがわみえさん

17LIVE担当者インタビュー

タグを組んでライブ配信の可能性も広がった

「代案ではなく、オンラインでしかできないことを前向きに企画したい」という言葉に熱意を感じました。配信内容はほとんどがはにコットさん側の構想から生まれた企画で、期待どおりライブ配信の可能性を広げてもらえたと感謝しています。結果も非常によく、今もこれがかきつけと見られるユーザー層が増えているようです。

Business Development Team 岡部早紀さん



新たな試みを展開中！

ライブ配信で全国の古墳を世界に発信

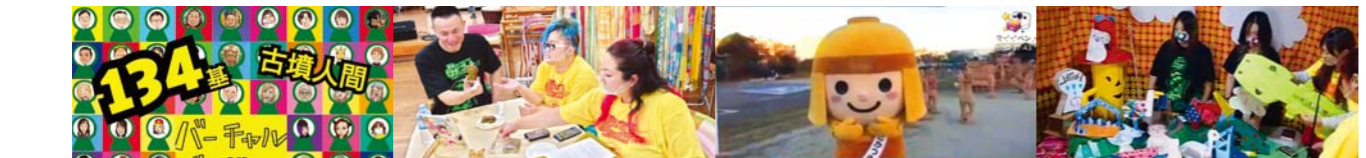
17LIVEとタグを継続、自治体ともコラボして各地の古墳をめぐるながら地域の魅力を紹介する「お家で古墳巡り 日本各地墳活」を今年の1月にスタート。「11月はこれを見てくれた方も一緒に盛り上げられるイベントにしたいです」



はにコットを応援するファンクラブ「墳クラブ」もスタート

古墳グッズはイベント期間限定のネットストアで、古墳フードは出店者のサイトで購入できるようにした

サンリオキャラクターズと古墳フェスのコラボTシャツも実現。ご当地グッズを手がける会社にマキさんらのライブ視聴者がいた縁で実現したそう。今年も製作を計画中





高槻手作り市
実行委員会
Cocokara代表
西田吉美さん

高槻手作り市Cocokara

手作り作家に発表の場をと、平成20年、夫婦で営むカフェの店内で3人の作品販売からスタート。
近年は、春は富田、秋は旧城下町の神社を会場に、最大100ブースが出店するハンドメイドイベントに。

当時、高槻にはハンドメイドのイベントはなかった。客と直接話せることを喜ぶ作家と、それを楽しみにする客。商店街へ、神社へと会場を変えながら、イベントは地域とともに歩んできた。小さい子から高齢者まで、あらゆる世代がのんびり楽しめるのは「地域に根差した神社だからこそ」と西田さんは言う。「境内に入ったときの気持ちよさは、神社の持つ力です。出店者さんやボランティアさんが自ら準備や片づけを積極的に手伝ってくださるあたたかさも、手作り市の魅力です」。

昨春はやむなく中止にしたが、秋には対策をとって開催。参加者からも喜びの声が上がった。今春も中止だったが、要望の声は励みに。「私たちは自分たちも楽しむことを大切に続けてきました。それが地域のためになれば幸いです」。長く続くイベントの原動力は、やはりまちを想う気持ちだった。

「みんなで楽しみ、助け合える手づくり」のあたたかみを大切に



最近マルシェのイベントも増加し作家の発表の場が広がったことを喜ぶ。「イベントにとって時間は大きな力。義務になると続かない。ぜひ私たちに、楽しみながら長く続けてほしい」とエールを送る。地域密着型の手づくりイベントを志す人は、ぜひ話を聞きに訪ねてほしい。



「幼い子がおこづかいで買えるものを」という作家の気持ちから10円で買える商品があるのも、手作り市ならではの

VOICE

ものづくりを通して生まれる人と人のつながりの価値。実行委員として地域に貢献できるイベントを続けたい。

岸宗清秀さん

ボランティアとして貴重な経験ができます。「また行きたい」と思ってもらえるイベントになりますように!

山脇ひとみさん

みなさんが搬出まで手伝ってください、楽しく出店できます。昨年秋の開催も感謝の気持ちでいっぱいでした。

瀬野里香さん

その場の空気感や、対面でのコミュニケーションの楽しさは、リアルイベントならではのもの。売り手が思いを伝え、買い手が感想を伝えて喜びを分かち合う笑顔の交流を、安全安心に提供しようと努めている人たちもいる。

リアルの良さを
最適なかたちで



あまマルシェ

市民活動団体・安満人倶楽部が主催。一次開園後、高槻の魅力を再発見するマルシェで安満遺跡公園を盛り上げようと、まずは高槻のパンをテーマにスタート。7000人を集客する人気イベントに。



(右から)
あまマルシェ実行委員会 代表
三輪由江さん
安満人倶楽部 副会長
(同実行委員会 副代表)
横川祥一さん

高槻の魅力に触れるイベントで
まちそのものも元気にしたい



「お店もお客様もすごく喜んでくださるので、当日めっちゃ楽しい」。実行委員会メンバーそれぞれの経験や情報をもとに、市民でも意外と知らないような高槻の魅力を紹介し、マルシェに来てくれた人が実際に足を運んでくれるきっかけとなるイベントを企画 중이다。

北摂初のパンマルシェとして初回から注目されたあまマルシェだが、昨年の春は緊急事態宣言が出る前に中止を決定。横川さんいわく「自分たちも不安で行きたくない」と満場一致だったのだそう。小売状態だった秋には「公園の活気が失われていたので、できるときにがんばろう」と、対策を万全にした開催を決意。「心待ちにしていた」という声も多く聞かれ、市民にとって大切な場所だからこそ、さらに魅力をアピールするイベントであり続けたいと思いを新たにしたいという。

今年の春も中止になったが、パンマルシェが定着しつつある今、「これからはテーマを広げて、高槻の各地域の魅力を発掘し伝えることにも挑戦していきたい」と三輪さんは語る。準備は大変でも、出店者や来場者の笑顔が原動力。「仕事ではなくボランティアでやってくるからこそ楽しんで続けていきます。今後に期待してください」。



コンセプトは「Re-Discover たかつき」＝高槻再発見。ロゴにも、日本酒やホタル、はにわなど、高槻の名産品や象徴的なものをちりばめた

高槻の美味しいパン屋さんを知る機会になって楽しい。子どもも喜ぶので、昨年秋の開催はうれしかったです。

十倉哲平さん

毎回参加しています。ワクワクして行った昨年の秋には、みんなが待ちわびていたのを感じました。

坂根悠美さん

お客さんからうれしい感想を聞いたり、後日お店に来てもらえたり。誰もが笑顔になれるイベントです。

岩澤克宜さん



高槻のイベントには
地元愛が詰まっています



高槻市観光協会
事務局長
北 建夫さん

市民がつくるイベントは、 高槻の大きな魅力のひとつ。

観光といえば「見る」観光もありますが、今は自分の感性で「感じる」体験する「観光が主流」となっています。イベントは、そうした面でも重要な観光資源のひとつです。高槻には市外からも多くの人を呼ぶイベントがたくさんありますが、最大の特長は市民が自らつくっているということ。そこに大きな価値があります。

自分たちでまちを盛り上げようという土壌は、昔からありました。観光協会の古くからの会員の方たちは、服屋さんや靴屋さんなど、一見、観光事業とは関係のない方が多くおられます。にぎわいをつくり、活気あるまちにしてほしいという期待を寄せて協会を支えてくださっているのです。そうしたなかから自分たちの手でイベントを催す人たちが現れ、共感する人が



体験交流型観光プログラム「オープンたかつき」

まちあるきにも便利な「たかつき観光アプリ」をぜひ!

観光情報と目的地へのルートが調べられ、オープンたかつきの情報も。飲食店情報やスタンプラリーなどの機能も順次追加予定



高槻の魅力を紹介し、まちを元気にするのが観光協会の使命。 事業者とタッグを組んで高槻を活気あるまちに。

生活者目線で行ってみたい旬の店や、掘り起こしたい古くからの名所、知られざる穴場や人気スポットなどを掛け合わせ、体験を通じた高槻の魅力発信を始めて5年。オープンたかつき事業に共感し、参加してくれる事業者をパートナーと位置づけ、「ネットワーク会議」で声を聞きながら、一緒にプログラムを展開している。

新型コロナによる延期や中止もあったが、対策をとりながら実施。「高槻の魅力を知ってほしい」と願う人たちの想いをつなぐためにも絶やさず継続していくことが大切と考え、さらなるパワーアップを目指す。



みんなに愛される定番イベントたちも!

時代に合った方法で、 高槻ならではの楽しさを、もっと!

新型コロナの流行は、高槻を盛り上げてきた人気イベントに大きな影響を与えた。それでも高槻愛にあふれるイベントたちは前を向く。辛さやジレンマを抱えながらも、次への想いを胸に動き出している。



※4~5ページ、7ページの写真は、新型コロナ感染拡大前の開催時のものも取り混ぜて使用

※開催予定のイベントは、状況により中止・延期となる場合がある。開催する場合は、新型コロナウイルス感染症対策のもとで実施されるが、参加にあたっては感染予防に留意した行動を。

